

ものづくりの人材育成

党愛知県議団

新設の総合工科高校を視察



愛知総合工科高校で先進的なものづくり教育の現場を視察する党愛知県議団

公明党愛知県議団(木藤俊郎団長)はこのほど、名古屋市内に今年度から開校した県立愛知総合工科高等学校(間瀬好康校長)を訪れ、県内の工業教育の中核となる先進的な取り組みを調査した。

同校は、機械系・電気系・建設系・化学系・デザイン系に分かれる本科(3年制)と、さらに高度な技術・技能を学ぶ専攻科(2年制)を設置し、「ものづくり愛知」の将来を担うスペシャリストの育成をめざす。

成分分析装置や電子顕微鏡など高度な実習ができる最新設備を備えている上、校舎は「生きた教科書」として、構造や配管・配線などが見えるよう工夫されている。また、産業界や大学と連携し、実践的なものづくり教育も行う。

県議団は概要説明を受けた後、機械加工実習室や建築施工実習室などを視察した。木藤団長は「ものづくりの技術・技能を継承していくことが重要だ」と強調し、次代を担う人材の育成に取り組む意欲を示した。